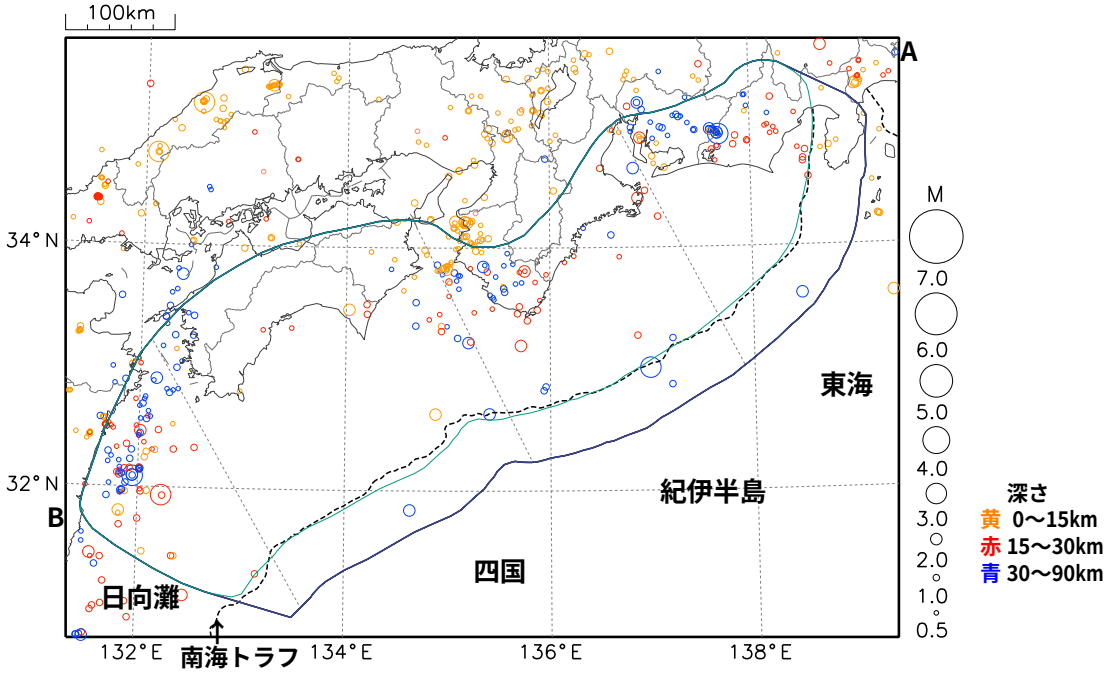
令和8年11月20日
気象庁地震火山部

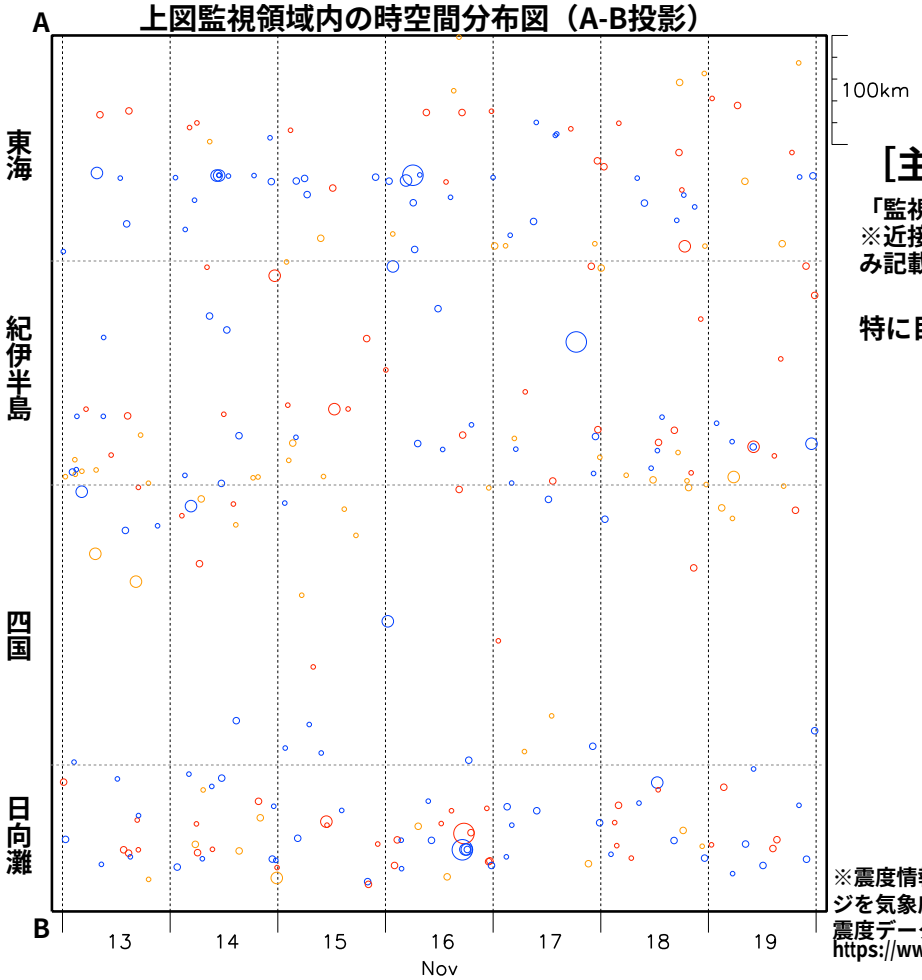
南海トラフ周辺の週間地震活動概況 No.47

通常の地震の活動状況

震央分布図（2026年11月13日～2026年11月19日、M≧0.5、深さ0～90km）



震央分布図の緑の実線（細線）は「南海トラフ巨大地震の想定震源域」を、青色の実線（太線）は南海トラフ地震臨時情報発表に係る地震活動の「監視領域」を、黒の点線は「南海トラフ」をそれぞれ示す。



*震源時、震央地名、マグニチュード等は、再調査により修正することがある。

[主な地震活動]

「監視領域」内で発生したM3.5以上の地震（最大5地震）
※近接して発生した地震については、最大規模の地震のみ記載。

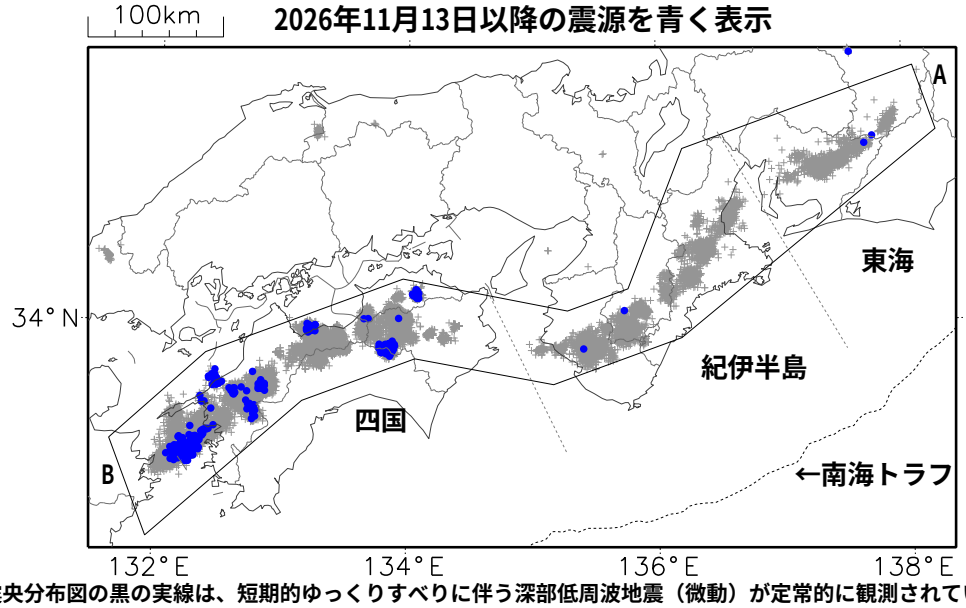
特に目立った活動はなかった。

※震度情報については、最大震度1以上を観測した地震の検索ページを気象庁ホームページに掲載しておりますので、ご利用ください。
震度データベース検索
https://www.data.jma.go.jp/eqdb/data/shindo/index.php

深部低周波地震（微動）の活動状況

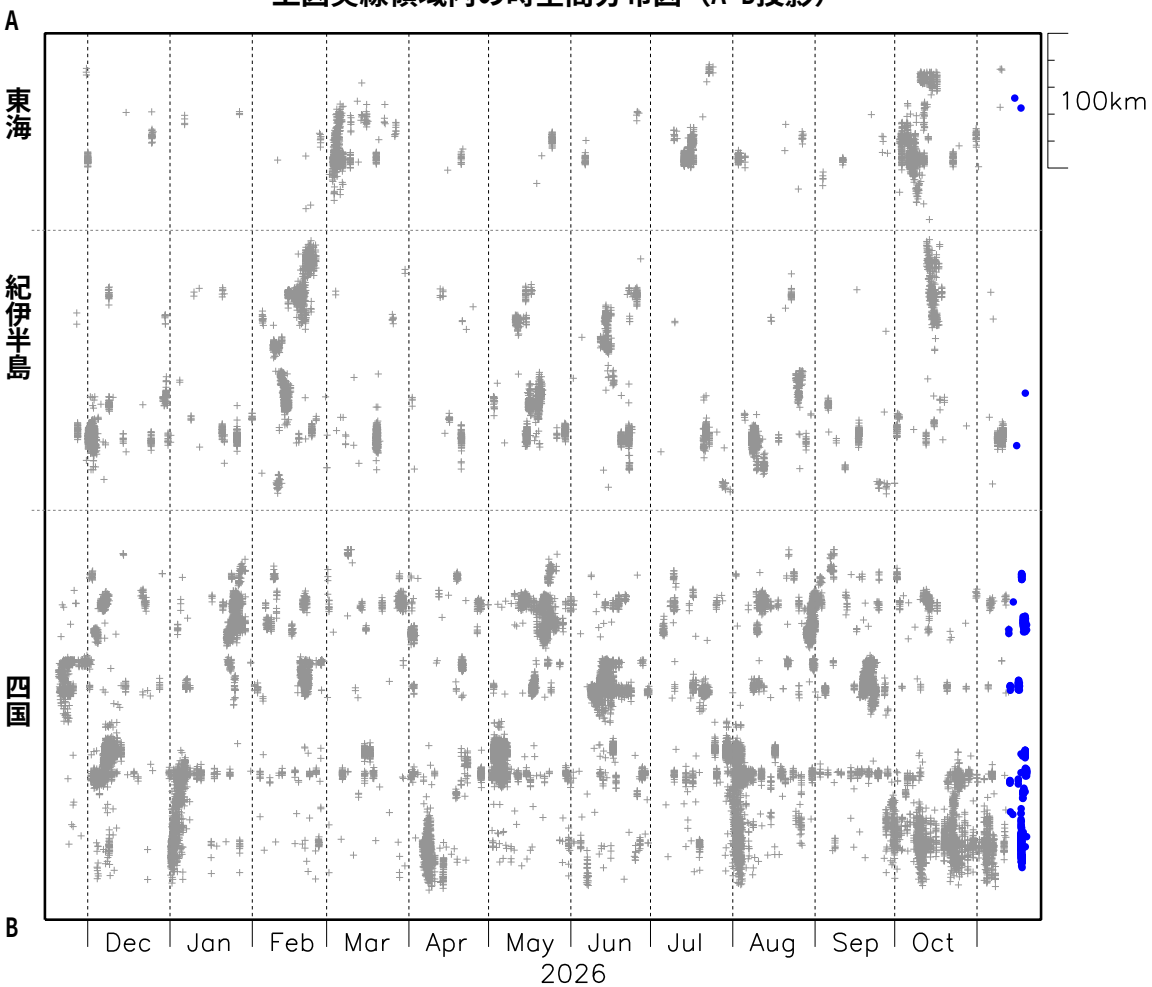
深部低周波地震（微動）活動が見られる時は、その活動場所とほぼ同じ場所で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界がゆっくりすべっている（短期的ゆっくりすべり）と推定されるため、深部低周波地震（微動）活動はプレート境界の状態変化の監視にとって、重要なデータの1つである。同じ場所での深部低周波地震（微動）活動は、数日～１週間程度継続することがあり、数ヶ月から１年程度の間隔で繰り返し発生している。「短期的ゆっくりすべり」「深部低周波地震（微動）」についての詳しい解説は、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/nteq/nteqword.html）をご覧ください。

震央分布図（2025年11月20日～2026年11月19日：過去1年間、M全て、深さ全て）
2026年11月13日以降の震源を青く表示



震央分布図の黒の実線は、短期的ゆっくりすべりに伴う深部低周波地震（微動）が定常的に観測されている領域を示す。

上図実線領域内の時空間分布図（A-B投影）



深部低周波地震（微動）の発生場所や短期的ゆっくりすべりの発生状況についての詳細な解析結果は、「南海トラフ沿いの地震に関する評価検討会、地震防災対策強化地域判定会」のページ(https://www.jma.go.jp/jma/press/hantei.html)に掲載しておりますので、ご利用ください。

国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。